

【先週のメッセージより】

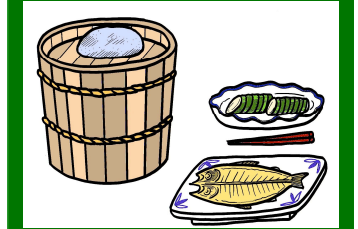
地の塩・世界の光／マタイ5:13～16

【地の塩】塩はどんな時代においても最も重要な生活必需品でしたが、特に二つの大きな役割があります。それは「味付け」と「防腐」です。クリスチャンが世界の味付けであるというのは、世界の歴史を見れば、十分に頷けることではないでしょうか。文学、芸術、音楽、科学、哲学、医療、福祉、教育・・・どのような分野を見ても教会やクリスチャンが果たして来た役割を見過ごすことはできません。

また、防腐剤としてのクリスチャンの働きとは、人間の罪から生み出される悪の進行を抑える働きです。近代の「人権」の基本的な考え方がキリスト教的世界観が最も強かった米英から発達してきていることを覚えなければなりません。人の顔色より、神が何を求めておられることを第一にするクリスチャンが一人いることで、職場、学校で「あの人がいるからこういうことはやめよう」と言われるなら、立派な防腐剤としての役割を果たしていることにならないでしょうか。

【世界の光】クリスチャンが世界の光であるとは、罪の闇路の中にある人々に対して、キリストの福音を照らす存在という意味です。イエスご自身が光であり、クリスチャンは一人ひとり「光の子ども」とされています。光の役割は、しっかりとイエスを指し示すこと、希望も救いも解放もイエスにあるということを人々に伝えることです。その意味で、クリスチャン一人ひとりが十字架の贖いと復活による罪と死に対する勝利のメッセージをいつでも人に伝えることができるようになってほしいものです。

【塩気を無くす、光を輝かせない】主イエスは「役に立たない」者にならないようにと強く戒めています。主は私たちにそれぞれ地上にいる間に果たすべき役割を与えて下さっており、それをしっかりやりなさいと仰っているのです。よくやったと言われる者になりましょう！



【復旧に取り組む日本を覚えましょう】

Pray
for
Japan

佐藤千恵子夫人の夢に思う

あなたがたが早く起きるのも、おそく休むのも、辛苦の糧を食べるのも、それはむなし。主はその愛する者には、眠っている間に、このように備えてくださる。詩篇127:2

クリスチャン新聞4/17号に佐藤先生の記事が載っていました。以下引用です。

「家内は20年以上前から、教会員が合宿しながら各地を旅する夢を見ていました。その夢があまりにリアルで何回も見るので、日記にその内容を記したほどです。当時私は、『神の家族でもある教会も、さもキャンプをしているかの印象で、象徴的に見たのではない



2006年にEllis島を訪れた佐藤先生ご夫妻

か』と答えていましたが、それは間違いでした。正夢です。私たちは今、家内がかつて見た夢の中を歩いています。神様はもしかしたら、夢を通して私たちの潜在意識に大震災に遭遇しても狼狽し過ぎることのないよう、最後は腹をくくることができるよう、働きかけておられたのかも知れません。」

これを読み、大震災の被害の大きさは確かに考えられないほどのものであったにせよ、主はすべてのことをご存知の上で私たちが出会う全ての出来事をコントロールしてくださっていることを考えさせられました。アブラハムの人生においてもイサクをささげる試練はアブラハムの信仰が十分に成長した時に与えられたものであった。福島に帰ることもできず、復興に取りかかることもできないでいる福島第一聖書バプテスト教会ですが、佐藤先生ご夫妻と教会員一人ひとりが培ってきた信仰がより純粋にされていていっているのを見る思いです。

【被災地のための祈り】

- 全知全能の主なる神、天の大祭司主イエスを崇めましょう。
- 行政・関係省庁：首相、自衛隊、警察、消防、医療、ボランティア
- 被災地の復興のため：農家、漁業水産関係者、多くの企業の工場
- 被災地の子供たちのため：学校の復旧、霊的な目が開かれるように
- 原発の問題の収束のため、修理のために働く人々、避難生活者
- 日本の教会が一致して地の塩、世の光として用いられるように
- 日本人が偶像礼拝を悔い改め、真の神に立ち返るように。
- 私たちと直接関わりがある人々のために。

福島第一聖書バプテスト教会、神栖めぐみキリスト教会
水戸下市キリスト教会のために。